

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.4

茅 (ちがや・かや)

VOI.1で紹介した「満天星」(さあ、何の異名だったかな?)の足をよく見てください!なんだか白いふわふわ、ふさふさした植物、若い花穂(かすい…こんな花の付き方をいいます。さあ、調べてみよう!このような植物は、よく知っているものの中にも結構ありますよ!)は、銀白色の絹糸のよう。小さな花(花っぽくはありませんが…)をそこにたくさんつけます。実はこの「茅」世界最強の雑草とも呼ばれ、強い繁殖力を誇る植物です。(ちなみに、「かや」というのは、このような植物の総称だそうです。)



さて、この植物、「万葉集」「古事記」にも登場する由緒正しい雑草なんです。みんな大好き、あの「百人一首」にも詠まれて(「読む」と「詠む」の違い、わかりますか?想像してから辞書で引いてみよう!「詠む」は主に…)います。



『浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど あまりてなどか 人の恋しき』

(参議等 さんぎ ひとし…嵯峨天皇のひ孫)

「あさじふの をののしのはら しのぶれど あまりてなどか ひとのこひしき」

(あさじうの おののしのはら しのぶれど あまりてなどか ひとのこいしき)

『浅茅生』は「まばらに生えている茅(ちがや)」のことです。歌全体の意味は【まばらに茅の生える篠(しの)竹の茂る野原(篠原)の「しの」ではないけれど、人に隠して「忍 しの」んでいても、あなたへの想いがあふれてこぼれそうになります。どうしてこんなに恋しいのだろう。】そうです、恋の歌です。あれ、前半の「浅茅生」のくんだり、いらぬんじゃない?なんて思わないでくださいね。これが平安貴族の優雅な技法「枕詞・掛詞」です。(3年生、授業で再度触れます。)

いずれにしても、そんな雅(何て読みますか?…正解は みやび です。余談ですが、日本を代表する世界的なロックミュージシャン・ギタリストであり、国連難民高等弁務官事務所で日本人初の親善大使に選ばれた MIYAVI もこの字を書きますね。音楽に興味のある人、難民支援に興味のある人 調べてみましょう!)な植物が、白井中で絶賛生育中!ぜひ、見てください。

ちなみに、このような植物の葉で屋根を葺けば(さあ、何と読みますか?ヒントは、次の「 」です。)「かやぶき屋根」となります。(もうわかりましたね。答えは ふけばです。)